



Qはころがりい

Q は 人 と であう



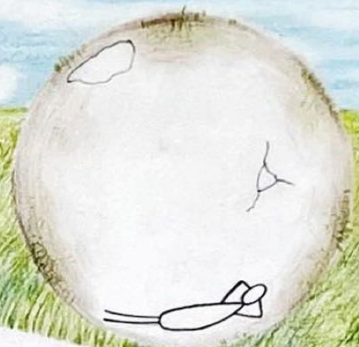
もりに つつまれる



みずにながされる



かぜに ふかれる



なみに うたれる

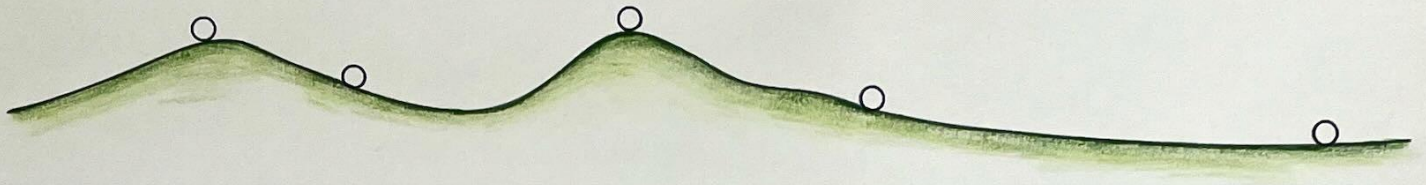


うみに きえる

CONCEPT

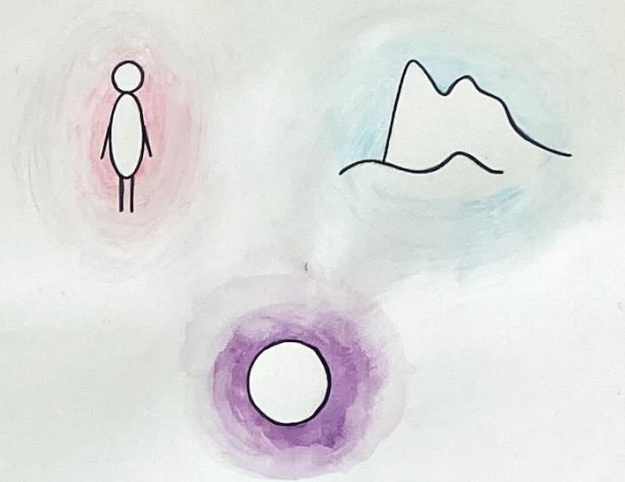
転がる空間はわたしたちに何をもたらすのか

GL は、建物が大地と触れる所であり、地球上の大地全体が GL になりうる。ころがって、大地のあらゆる場所と接する可能性がある Q には、無限に広がる GL が考えられる。

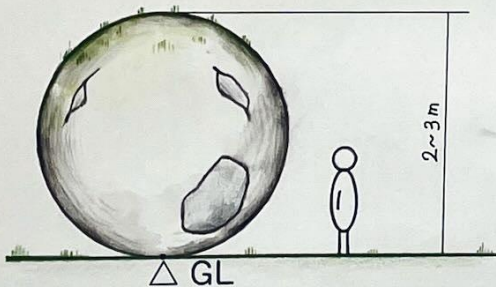


山頂に置かれた Q は、あらゆる方向の大地にころがりながら、GL を探っていく。

やがて人と出会い、「自然」と「Q」と「人」が交わり、建築となる。人が Q の中に入り、その場所で、その瞬間の GL を発見する。



人が離れた後、Q は、再び自然の流れに押され、大地が終わり海にたどりつく。Q は、海で朽ち、自然に還る。



- ・人が入れる程度の大きさの穴が開いている。
- ・光が優しく透ける殻を持つ。
- ・大地をころがって土や草を纏ったり、ヒビが入ったりする。



瞑想の空間。何もない真っ白の世界。地面に固定されていないという不安。たった一点でしか地面に接していないという危うさ。一方で、どこにでも行ける、何色にも染まれるという期待。人は、その瞬間の GL と共に過ごす。

- ・建物をつくるために GL を作り出すのではなく、大地という GL を自然に発見していく。
- ・ころがって動くことのできる空間で自然に身を任せて過ごしてみる、という受け身な行動が、人の心に余白をつくり、柔軟な思考を生むきっかけとなる。

直径約 2mの Q を制作する実験を行い、「自然の中の Q」を観察した。今回は素材として和紙を選択した。
撮影場所：吉田山(京都市左京区)

